

説教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2022年9月4日（日）

主 題：「神は愛です」（2）

－信仰の物差し－

テキスト：第一ヨハネの手紙3章13～15節

**はじめに**

・お早う ございます！

- ・ヨハネは初代教会時代の聖徒たちに、互いに愛し合うことを勧めました。それは神に愛され者が、今度は互いに愛し合うという歩みに生きるためでした。
- ・神の本性は「愛」です。神によって救われた聖徒たちも同じように、互いに愛し合うことは大切です。
- ・ヨハネは次のように述べました。
 

3:11 互いに愛し合うべきであること、それが、あなたがたが初めから聞いている使信です。
- ・しかしながら、それは分かってはいますが、肉を宿として歩む私たちは、互いに愛し合うことは容易ではありません。前回、私たちはカインとアベルの兄弟ストーリーから学びました。第一ヨハネの手紙3章
 

3:12 カインのようになってはいけません。彼は悪い者から出た者で、自分の兄弟を殺しました。なぜ殺したのでしょうか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。
- ・私たちは前に、兄弟愛の実行（奥義）は、私たちが光の中に留まっているならば可能であることを学びました。イエス・キリストは「わたしは世の光です。」と言われたように、ご自身が「光」です。ですから、イエスとともに歩む生活こそ、光の中にある歩みと言えます。
- ・ヨハネは神の愛を受けた人について、第一ヨハネの手紙3章の残り部分（13節～24節）で、3つの事実を表現しています。
  - ① 死からいのちに移っている事実
  - ② 愛が分かったという事実
  - ③ 真理に属する事実
- ・今日は、私たちは①「死からいのちに移っている事実」について考えましょう。

2点

## 大切なポイント

### 1. 死からいのちへ移る奥義

3:13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。

3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。

- ・ヨハネはここで、「自分が死からいのちの移ったことを知っています。」と述べています。では、人はどのようにして自分の存在を確認するのでしょうか。

{例話}

- ・昔、NHK に鈴木健二という名アナウンサーがいました。話術に大変長けた方で、多くの方々を引き付ける話法をお持ちでした。その鈴木氏が話術についての本を書き残しました。題名：「人を動かす話術」
- ・その本の中で鈴木氏は、「うわさ話し」は「人生の墓場での読経」(Sutra chanting at the graveyard of life) と述べておられます。うわさ話しの多くは、うわさしている相手と自分との比較である言います。人間は他の人と比較しなければ、自分の存在が自分で確かめられないと述べています。
- ・神が不明であるならば、人はどうしても他人と比較するものです。しかし、それは相対的なものですね。それによって優越感を覚えたり、逆に劣等感を覚えたりします。鈴木氏は、「うわさ話しは、人生の墓場での読経である。」と言いました。
- ・では、私たちキリスト者はどうでしょうか。私たちは他人と比べたり、または人はどう思うかという社会で生きる者でしょうか。いいえ、そのような社会から解放されたものであります。
- ・そして神の愛を経験する存在となりました。神がどのように恵みと愛に富むお方であるか、経験をすることができる存在となりました。じつに幸いな人と変えられました。
- ・イエスは、あるとき次のようなたとえ話しを語られました。

マタイ 18 章 23～35 節

18:23 ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。

18:24 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。

18:25 彼は返済することができなかったので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。

18:26 それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。

- 18:27 家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。
- 18:28 ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。
- 18:29 彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。
- 18:30 しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。
- 18:31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。
- 18:32 そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。』
- 18:33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』
- 18:34 こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。
- 18:35 あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」
- ・皆さん。私たちはイエス・キリストによって、負債が赦されたものではありませんか。その秘密は、私たちの主人（創造神）が、負債をすべて支払ってくれたからです。ですから、負債はないと者とされ、死から命へ移ったものです。私たちは死から命へと移った者です。

## 2. 死からいのちへ移った事実

- 3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。
- ・私たちは何によって、自分は死からいのちに移ったと分かるのでしょうか。  
⇒「兄弟を愛する」ことによってです。
  - ・人間というものは人を赦せないのに、自分は「愛されたい」と願うものです。人を理解しようとしなのに、自分は理解して欲しいと願います。そこで、さまざまな衝突や不満が浮上してきます。それが多くの人々の日常生活でもあります。
  - ・時にはカインのように、自分の行いは悪く兄弟は正しいからという理由からねたみ、それがエスカレートし殺人にまで至ることがあります。大変、心が痛みます。

- ・しかし私たちが兄弟を愛する者になっているならば、それは私たちの内に大変革が起こったからです。すなわち、死から命へと移っているという事実です。
- ・死からいのちへ移った事実、それは「兄弟を愛する」ことによって、明らかになります。その逆は、「愛さない者」であり、「その人は死のうちにとどまっている」のです。その人は新生した神の子ではありません。
- ・一般社会で、愛は冷えてきました。人を愛することは、じつに遠い事実となってきました。愛せない事実が続けば、憎しみが芽生えてきます。その憎しみは殺人と同じです。イエスは言われました。 **マタイ福音書5章**  
 5:21 昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。  
 5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。
- ・ 1ヨハネの手紙2章  
 2:11 しかし、自分の兄弟を憎んでいる人は闇の中にいて、闇の中を歩み、自分がどこへ行くのかが分かりません。闇が目が見えなくしたからです。
- ・ 1ヨハネの手紙4章  
 4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。
- \* 「兄弟を愛する愛」、それはバロメーター（物差し）です。
- ・ 私たちは先ず、神に愛されたものです。ですから、今度は兄弟を愛する者と変えられたのです。これは100%、神からの贈物です。死から命に移った人の姿（事実）であります。
- ・ 私たちはこの事実を喜び、神に心から感謝する者です。  
**聖書：第一ヨハネの手紙4章**  
 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があります。

## ま と め

主 題：「神は愛です」（2）

—信仰の物差し—

- ・主は今朝も、私たちにお語りくださいました。かつて、私たちは愛を知らない

者でした。しかし、イエス・キリストが十字架におかかりくださり、私の罪を全部処分し赦してくださいました。

- 神の愛によって、罪という負債を赦していただきました。その事實は、今度は私たちが「兄弟を愛する者」に変えられたことによって分かります。

本当に感謝であります。「神は愛です」

⇒今は互いに愛し合う存在に変えられた事実に感謝します。

- 最後に次の聖句を読み、お祈りしましょう。

3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。